

平成29年度 第1ステージカリキュラム一覧

通し番号	講義・演習名	概要	想定時間	目的別区分け
①	PM概論	DARPAのPMとはどのようなものか、さらに日本の研究資金提供(ファンディング)システムとしてPMを明示している内閣府のImPACT、JSTのACCELを例に上げ、公開資料の内容を中心に把握することにより、PMに求められる能力と今後のPM育成・活躍の方向性について考える。	1.5	PM研修全体に係わる総論
②	事例解析	成功パターンを構造化したさまざまなケース事例を取り上げて、課題を自分事として捉え、自らの視点で追体験できるような実践的な講義を目指す。ものごとの理解を深め、意思決定能力の向上を目的とする。	18	社会ニーズを把握する力
③	シナリオプランニング	将来起こりうる様々な変化(政治、経済、社会、環境、技術等)を予測して、ビジョンを実現するための複数のシナリオを考え、ベストシナリオとワーストシナリオから戦略の意思決定について見立てを行う。	3	社会ニーズを把握する力
④	イノベーション創出	イノベーションと革新的技術や発明と何が違うのかということを理解したうえで、持続的にイノベーションを起こすために何をすればよいのか、それに必要な思考方法、方法論、知識を学ぶ。	1.5	社会ニーズを把握する力
⑤	産業構造	特定産業における構成者を分類し、どの構成者が当該特定産業における動向の決定者であるかを見抜き、研究成果を託す的確な企業を探索できる能力の習得を目指す。	4.5	社会ニーズを把握する力
⑥	思考展開法	イノベーションを引き起こす技術(商品)の事業化を目標に定め、その目標達成に向けた研究開発計画を立案することを通じ、PMとして必要な企画立案能力の獲得を目指す。	12	新たな価値を創造する力
⑦	プログラムデザイン	物事を多面的に捉え、共感を得る仕組みとしてデザイン思考のアプローチを理解し、イノベーション創出のためのプログラムデザイン手法の習得を目指す。	4.5	新たな価値を創造する力
⑧	プログラム評価	プログラムの論理性を可視化するために必要なモニタリング評価手法やプログラム全体のフレームワーク(価値-仮説-評価)を認識するためのロジックモデルなどを講義する。	4.5	新たな価値を創造する力
⑨	ロジカルシンキング	構想を立案する上で重要なアジェンダ設定能力を養うため、主張と根拠の構造化(ピラミッドストラクチャー)を行い、論理構成を図式化することで、論点のコントロール手法を習得する。	4.5	新たな価値を創造する力
⑩	ファシリテーション能力	国内外の様々なステークホルダーとの協力関係を構築し、相互理解に基づいて、建設的な行動を引き出すために必要なファシリテーション手法の習得を目指す。	3	プログラムを推進する力
⑪	ヒューマンリソースマネジメント	人を巻き込むために必要なリーダーシップ力、説得術、傾聴力、調整交渉術、信頼関係構築手法を習得し、変革に対応したチームマネジメントを目指す。	3	プログラムを推進する力
⑫	モチベーション向上手法	プログラムマネージャーとしてイノベーションを達成するというモチベーションを向上させる手法を、経験者の講話から導き、習得することを目指す。	3	プログラムを推進する力
⑬	組織マネジメント	研究開発プログラムを1つの組織として効果的に運営するためのチームビルディング手法やリスクマネジメント手法の習得を目指す。	4.5	プログラムを管理する力
⑭	知財戦略	研究成果と知財の管理・活用は、プロジェクトの成否を握る重要な要素である。ここでは、産学連携のプロジェクトにおける知財のマネジメントの重要性と、特に体制設計時のポイントを理解することを目指す。	3	プログラムを管理する力
⑮	契約法務	研究契約の種別、各種別における契約事項の知識習得と契約締結時における利害関係に係わる注意点等を産学連携の交渉モデルケースを用いて説明する。	3	プログラムを管理する力
⑯	広報戦略	社会に対して効果的に研究成果を展開させるための外部発信(プレス発表、学会発表、展示会への出展)に必要な知識と技法の習得を目指す。	1.5	プログラムを管理する力
⑰	研究倫理	プロジェクトを実施するに際し、研究不正を未然に防ぐ手法を習得すると共に、不正発生時に的確な対応を行うことで、その影響を最小限に抑制する手法の習得を目指す。	3	プログラムを管理する力

PMに求められる人材像

大きな波及効果をもたらす革新的技術や新たな価値創造を目指す研究開発プログラム等を企画し、専門的知識や技術を持った人材とともに、第一線の研究者と連携しながらプログラムの目標達成を目指して主導的に実行・管理する者。

